

ピースツーリズム推進懇談会 とりまとめ

平成30年（2018年）2月28日

ピースツーリズム推進懇談会

目 次

ピースツーリズムとは3

 目指す姿3

 取組概要4

具体的な取組内容について

 1 来訪者への情報発信について5

 ▷伝える内容5

 ▷発信方法6

 ▷スマートフォン等を活用した方法7

 2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて8

 ▷平和に関連する場所8

 ▷市民等が関わる環境整備8

 ▷ルート設定にあたっての基本的な考え方9

 ▷提案ルート11

 3 迎える市民の積極的な関与について17

 ▷迎える際の対応17

 ▷関与のあり方17

ピースツーリズムの推進にあたっての配慮・対応が必要な事項18

ピースツーリズムとは

▷市民・行政・関係機関が一体となって、平和関連施設等を円滑に周遊するための環境整備を行うとともに、国内外からの来訪者にヒロシマの被爆の実相等を伝えていくことで、来訪者と市民が平和への思いを共有していくもの。

目指す姿

▷国内外からの来訪者が、広島の、

- ・被爆前の歴史・文化や市民生活
- ・原爆による破壊とその後の苦難
- ・復興に向けた市民のたゆまぬ努力によって築かれた今の姿
- ・被爆体験の継承と核兵器のない世界の実現への取組

に触れて、思いを巡らすための丁寧な案内を提供することで、来訪者と市民が共に平和とは何かを考え、共感し、平和への思いを共有する。

取組概要

来訪者への情報発信について

- ▷外国人旅行者や修学旅行生などの来訪者を対象に、被爆の実相を伝え、共に考え、平和への思いを共有してもらう。また、被爆の痕跡や人との触れ合いを通じて被爆の実相を伝えることの重要性を基本認識として、バーチャルな方法も含めた様々な発信内容・方法とする。

来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて

- ▷被爆前からの歴史・文化や復興してきた足跡なども理解できる場所を選定し、広島を様々な観点から理解できるようにする。
その際、訪れやすい関連の場所、平和について考えることができる場、休憩の場などもあわせて選定し、来訪者が広島について、より理解しやすいようにする。
- ▷来訪者を迎えるにあたっては、多言語の説明板を設置するなど、受入環境の整備を進める施策に取り組む。
- ▷場所を巡るにあたっては、伝えたいテーマ、地理的な範囲、移動手段等を考慮して複数のモデルルートを設定する。

迎える市民の積極的な関与について

- ▷スマートフォン等の情報端末により案内や施設解説をするのみならず、市民と触れ合いながら巡る施策に取り組む。

具体的な取組内容について

1 来訪者への情報発信について

▷ 伝える内容

- ・訪れた場所における被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向けて市民が取り組んできた様子も伝えていく。
- ・来訪者のことを知り、来訪者の視点に立って情報をきめ細やかに伝えていく。

■ 具体的に伝える内容（時系列での整理）

- ・市民は被爆前にどんな生活をしていたのか、原爆が落とされた時に何が起こったのか、どのようにして苦難を乗り越えてきたかなど
- ・平和記念公園は、元は公園ではなく、人が住んでいた街であったこと
- ・当時、市内に在住していた外国人も被爆したエピソード
- ・こんな悲惨な体験を他の誰にもさせてはならないというメッセージ
- ・被爆後の混乱期を生き抜いた企業の歴史と精神
- ・広島から海外へ移住した人達などから、広島への復興支援があったこと
- ・佐々木禎子さんなどにまつわる千羽鶴の話
- ・情報発信するそれぞれの施設等の関連情報

■ 情報を伝えるために対応していく事項

- ・来訪者の視点に立った発信
広島ではあたり前のことでも来訪者は知らないことが多いことを念頭に置いて丁寧に発信する。
（なぜ折り鶴が広島の平和を象徴しているかなど）
それぞれの平和観を持っている世界からの来訪者と、痛みや苦難、希望を共有し、それを通して最終的に平和をつくることにつなげる。
世界中の苦難の中にいる人達の思いを受け止めたうえで、情報発信する。
訴求したい対象にあわせて、初めての来訪者向けのコンテンツ、若い人に訴求するコンテンツなどを整理する。
- ・付加情報の発信（滞在時間の延長につなげるための、夕方以降の過ごし方の提供など）
- ・平和首長会議の取組の強化

▷ 発信方法

- ・来訪者の多様な興味・関心に応じた情報提供ができるようにしていく。
 - ・来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求していく。
- ⇒これらの実現のために、被爆の痕跡や人との触れ合いを通じて被爆の実相を伝えることの重要性を基本認識として、バーチャルな方法も含めた様々な発信内容・方法を検討するが、まずは、スマートフォン等を活用した方法から着手していく。

■ 具体的な発信方法

情報発信拠点	情報発信手法の充実
・観光案内所でのルート紹介 ・資料館やその近くの場所での発信 ・ゲストハウスとの連携 ・JICA研修生等の長期滞在者や広島で就労している海外出身者への情報発信 ・県民文化センターなど市内中心部の既存施設での発信 ・来訪者が選べる複数の選択肢の用意 ・初めて来訪し広島を知らない人でも自発的に選ぶことができるような、テーマやルート内容の分かりやすい発信 ・ある関心事を来訪者が選ぶとその人の要望に応じた情報が出てくるようなシステムの作成 ・広島を訪れた人が、身近な人や自分の地域社会で、さらにヒロシマを発信 ・市民一人一人が自分の言葉で主体的に発信	・英語で広島を紹介するフリーマガジン「GET HIROSHIMA」の被爆樹木の記載の活用 ・被爆樹木や被爆建造物に行き着くことができるよう、グーグルマッピング等の活用 ・御幸通を含めた郷土資料館、広島城、水道資料館、江波山気象館などの職員が持つ情報の発信 ・映像を使った、広島が凄まじい惨禍を受けながら、立ち直った過程の発信 ・慰霊碑はまとめてマッピングするなど、情報の出し方の工夫 ・テーマ性を持ったバーチャルルートの作成 ・そこに行けば伝えたい内容が理解できるような説明板の設置 ・初期段階ではターゲットを絞り、ガイドによる案内を実施 ・現在の平和事業に、現代美術のヒロシマ賞やアニメーションフェスティバル(ヒロシマ賞)など文化の事業を合わせた広島メッセージの発信

■ さらに発信力を高めるために対応していく事項

情報発信の工夫	情報発信手法の充実
・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みづくり ・広島に来訪する前にルートを知ることができるような方法の検討 ・一つの物事・場所に色々なインデックスを付けることによる、来訪者の興味・関心に応じた選択肢の設定	・被爆建造物について、そこでは被爆時までどんな営みをし、8月6日に何が起こったのか、イメージできるコンテンツの作成 ・ヒロシマを発信源とするアート作品をたくさん作ってもらう仕掛けづくりを行うなど、その作品を通じた広島の発信 (例示: アートを通して平和を発信したい人が発表する場、研鑽する場、つくる場として、現代美術館を機能させる等)

▶ スマートフォン等を活用した方法

スマートフォン等による情報発信方法についての基本的な考え方

- ・訪れた場所の被爆の実相といった基本となる情報に加え、関連する情報も発信する。
- ・来訪者の興味、関心及びニーズに応じて、自由にルートや目的地を選択できるようにする。
- ・ひと目でルート、目的地及び自分の位置などが把握でき、必要とする情報までの操作が容易にイメージできる画面の内容とする。
- ・来訪者が必要とする情報へ簡単に到達できる。

ルート上の場所(例:
原爆ドーム付近)に
近づく情報提供画
面に誘導するメッ
セージを自動的にス
マートフォンに配信



Hiroshima Free Wi-Fiを活用
して情報提供画面へ誘導

【画面イメージ】(将来的には多言語を制作)

トップページ



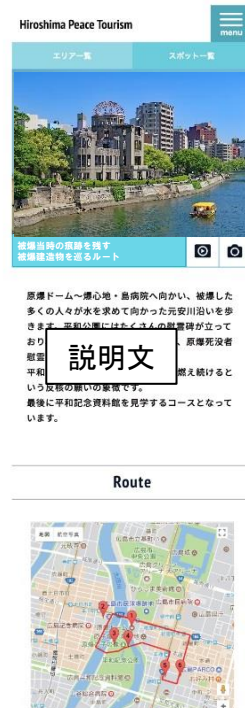
ルート選択ページ

ルートのテーマ、地図に表示された
ルート図、エリアのいずれから選択



ルート詳細ページ

全体の地図、現在地、所
要時間等を表示



訪れた場所の情報



AR(拡張現実)等を活用
した情報提供のイメージ

被爆前や被爆直後及び復
興の状況等の情報

2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくりについて

▷ 平和に関連する場所

別紙 1 のとおり （53箇所）

▷ 市民等が関わる環境整備

施設を所管する管理者や市民等と共に、平和に関連する場所の環境整備に向けて取り組んでいく。

■ 対応が必要な事項

- ・劣化した説明板の補修、見えにくい説明板を改善するとともに、必要に応じて増設する。
- ・比治山の市街地が一望できる展望台を早急に整備する。（樹木によって遮られ市街地が見えない）
- ・広島大学旧理学部1号館は草木が伸びたり、建物はガラスが壊れていて廃墟のようになっている。維持管理を徹底するとともに、早急に整備方針を決定する。
- ・めいぶる～ふは「二葉の里歴史の散歩道」の一部を通行しているが、道路を整備することにより散歩道部分の通行距離を伸ばす。
- ・【県連携】旧陸軍被服支廠は保存と活用内容を早急に検討し、具現化を促進する。
- ・平和記念公園周辺に、レストハウスのような施設が不足しているので、整備する。
- ・自転車の走行環境や横断歩道などのインフラを整備する。
- ・市民のアイデアを活かす仕組みを検討する。

▷ ルート設定にあたっての基本的な考え方

- ・来訪者が関心のあること(被爆の実相や被爆前からの歴史・文化、復興してきた足跡など)や、滞在日数等の旅行条件に合わせて選択できるように、複数のテーマとストーリーを設定していく。
- ・その際には、来訪者が静かに考えたり、ニーズに応じて選択したりすることができるよう考慮する。
- ・また、来訪者が、ルートの途中でやめたり、ルートの一部を変更できるなど、自由に巡るようにする。

■ 具体的なルート内容

- ・テーマ性を持ったバーチャルルートの作成【再掲】
- ・テーマ毎にルートを設定するほか、あるエリアの中で複数のテーマに触れることができるルートの設定
- ・自分の足で歩くのは難しい高齢者も利用しやすい、市内循環バス「めいぶる一歩」によるルートの設定
- ・自分の思いを解き放ち、座って静かに考える場所の設定(例示:川のそば、海のそば、緑の中など)
- ・途中から始めても、途中でやめてもよいことを念頭に置いた、始点と終点を決めない循環型のコース設定
- ・無限大マークのような、片方の輪だけを巡る場合や、両方を巡る場合など、来訪者が選択できる形のルート設定
- ・各ルートに重複がないように考慮

■ より良いルートとするために対応していく事項

- ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みづくり【再掲】
- ・自由に組み立てができるオプションの提示
- ・広島に住んでいる人も意外と気付いていないところを気付かせる切り口の提示
- ・復興してきた広島の実跡を実際に辿れるようなストーリーの作成(例示:カープ、お好み焼き、海外移民からの支援など)
- ・来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせた、対面での個別ルート提案
- ・佐々木禎子さんのストーリーをめぐるルート設定
- ・被爆者が当時避難した経路を歩くなど、人の動きを軸にしたルートの設定

来訪者が巡りたいポイントをおさえて快適に周遊できるよう環境等の整備を行っていく。

■ 具体的な考慮事項

- ・平和に関する取組は、「被爆体験」を原点とすること
- ・それぞれの施設等について簡単なガイドブックの作成
- ・ルートから外れたところについて、どのようにそこに到達できるかの情報提供
- ・ルート上の代表的な場所を回ってもらい、他は後ほど情報を調べられるよう、バーチャルな方法により情報提供
- ・平和を学びながら今の広島を知ることができるよう考慮（平和関連施設だけでなく飲食店の情報なども紹介する等）
- ・観光案内所を目立つ場所に多く整備
- ・市民に実際にルートを回ってもらうなどによる、体験者からのフィードバックの入手とルートへの反映

■ 今後、ルート周遊の環境整備等をさらに進めるために対応していく事項

- ・商店、ホテル、市民などに花や木などの植木鉢を置いてもらう取組を進め、さらに文化・芸術という要素を加えたまちづくり「花と緑と音楽のまち広島」の推進
- ・時間が限られている人に再来訪を促すため、短時間で各ルートの内容の一部に触れるダイジェスト版のルート体験の促進
- ・来訪者が日中にルートを周遊できるよう時間にゆとりを持たせるため、早朝や夜間に地域文化を発信する取組の推進（例示：縮景園の早朝開園、夜神楽公演など）

▷ **提案ルート（別紙 2～5）**

- ① 徒歩と自転車（ピーすくる）による被爆当時の痕跡を残す
被爆建造物を巡るルート
- ② めいぷる～ぷと徒歩による被爆前後の文化・文学を巡るルート
- ③ 徒歩と自転車（ピーすくる）による市民生活の復興を巡るルート
- ④ 徒歩による被爆に関する資料館を巡るルート

3 迎える市民の積極的な関与について

▷ 迎える際の対応

- ・市民一人一人が、来訪者に説明、案内等ができる環境づくりを行う。
- ・来訪者が、市民との触れ合いを通じて、広島が平和を希求する街であると実感できるような施策を展開していく。

■ 具体的な対応内容

- ・市民一人一人が自分の言葉で広島を語れる環境づくり
- ・ボランティアガイド受付の窓口を一本化
- ・温かくおもてなしをするような意思を持つ人の意思表示の仕組づくり(バッジの作成など)
- ・来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせた、対面での個別ルート提案【再掲】
- ・設定したルートを一緒に歩く人の募集

▷ 関与のあり方

市民が来訪者と関与・交流できる場の設置や、市職員の積極的な関与などの対応を進めることにより、市全体の力を結集させていく。

■ 具体的な対応内容

- ・本事業の市民への周知促進(広報紙による広報、説明会実施、市民と一緒にルートを歩く企画の実施など)
- ・多くの市民が関与し続けることのできる方策の推進(市民自らが案内役になる、街角で出会った来訪者に良い情報を伝える、など)
- ・ボランティアの関与の促進
 - ピースボランティアや被爆体験証言者、被爆体験伝承者にも協力を呼びかけ
 - ボランティアにとっても学びにつながるなど、来訪者とボランティアの両方に利点のある方策を検討
 - 子どもがいる若い家族などにホームステイ登録を呼びかけ
 - ボランティアのスキルアップのための取組推進
 - ボランティアとして関わりたい人の活躍の場の創出や、どのようにすればこの事業に参画できるかの分かりやすい発信
 - ボランティアの役割を限定せず、市民からの提案も募り、様々な形でボランティアとして参画できる仕組みづくり
- ・学校の平和教育への導入
- ・手入れが行き届かない慰霊碑を地域子ども達が整備することによる、被爆の惨状などについて学ぶ機会の創出
- ・資料館を見学した修学旅行生等に問いを投げかけ一緒に考える場の創出
- ・高校生など若い人達にピースツーリズム推進について考えてもらう意見交換の場の創出
- ・観光施設、宿泊、交通等の事業者を対象とした研修プログラム作成と、研修修了者がいる施設等の周知
- ・行政と市民を結びつける方策の推進(平和行政に関心のある市職員による、ピースツーリズムのサポートチームの結成等)

ピースツーリズム推進事業の推進にあたっての配慮・対応が必要な事項

■ 行政が所管する施設等での配慮・対応

各施設等を所管する関係部局と、本懇談会の意見交換内容を共有し、検討を進めていく。

● 配慮事項

短期	中長期
- 文化・芸術により平和を希求するなど、文化事業を通して平和へのメッセージを受発信する。 - 市立高校が行っている平和事業を充実させ、まとめて発信する。	観光ホームページ、平和記念資料館ホームページ、広島市ホームページなどを使いやすくする工夫がいる。

● 対応が必要な事項

- 被爆の実相の情報発信のあり方やピースツーリズムとの連携について議論する。
(例示: 平和記念資料館、袋町小学校、本川小学校、旧日本銀行広島支店の展示、解説方法など)
- ピーすくるの利用方法を分かりやすくする。
- 現代美術館の発信力を高める。また、現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような事業も企画していくなど、平和と文化・芸術事業のあり方を検討する。

短期
↓
中
↓
長期

■ 民間事業者による配慮・対応

各関係事業者と、どのように対応できるか、協議を進めていく。

● 配慮事項

短期	中長期
・おりづるタワーなど平和に関心のある関係者との意見交換の場を設定する。 ・テレビ局等が所有している映像等のアーカイブをピースツーリズムに活用することの協力を得る。 ・めいぷる～ぷのルート毎の違いを外国人に分かりやすく発信する。 ・雁木タクシー、広島城遊覧船、世界遺産航路などについても一体的なPRを行う。	・観光施設、宿泊、交通等の事業者の方々からも来訪者に情報提供してもらう。

● 対応が必要な事項

- ・めいぷる～ぷの各バス停や車内において、バス停付近の施設案内や他の交通機関への乗り換え案内など、必要な情報提供をする。
- ・広島駅の列車の到着メロディーとして、ひろしま平和の歌や広島カープの応援歌を流す。
- ・広島駅で広島らしさを感じられるような雰囲気づくりを行う。（例示：壁面を利用した平和のイメージの発信）
- ・広島駅を起点に、めいぷる～ぷの特定の便を「めいぷる～ぷピースバス」として新たなコース設定する。ガイドが同乗して平和関連事業などについて説明する。
- ・子どもがいる家族に、異文化に触れることができる機会として声を掛け、ホームステイ受入を組織化するシステムをつくる。

短期
↓
中長期

■ピースツーリズム推進に向けての基本的事項

調査・情報収集を行い、基礎情報として活用していく。

● 配慮事項

短期	中長期
・市民意識や、広島に来られる外国人旅行者の思いを調査する。 ・既存のマップ類を調査・調整する。	・日本語を理解できない外国人がどのようにして情報を得ているか調査する。

● 対応が必要な事項

・首都大学東京の渡邊准教授が広島女学院中学・高校の生徒達と一緒に作っている、バーチャルな地図の上に被爆体験を落とし込み、地図にかざすと被爆体験が読めるウェブサイトがあるので、活用する。市立高校での取組の可能性についての検討なども進める。 ・アウシュヴィッツ国立博物館の実施している平和への取組を参考にする。 ・長崎市が実施している情報発信の取組を参考にする。 ・長崎市との交流や連携について意見交換する。 ・ピースツーリズムを持続可能な施策とするため運営組織や必要経費などのあり方を検討する。 (例示: 関与する市民の交通費等の費用負担等も含む) ・寄付を募り、ピースツーリズムの整備を進める体制を検討する。	短期 ↓ 中 ↓ 長期
--	-------------------------

■その他の対応

● 対応が必要な事項

・市全体で取り組む事業として横断的な連携を図れるよう、市職員一人一人の意識付けを図る。 ・懇談会でとりまとめた意見・方策をどのように具現化していけるのか検証できる仕組みをつくる。 ・PDCAサイクルを回し、ピースツーリズムを進化させる。	短期 ↓ 中 ↓ 長期
--	-------------------------